# NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞と図書館を活用した「現代社会」の授業実践

2．学校名

長野県下諏訪向陽高等学校

3．実践者名（代表者名）

春日 雅博　　松井 正英

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

現代社会　33人

6．単元（本時の学習課題）名

基本的人権の保障と新しい人権

7．目標（狙い）

生徒が自分で調べることで、授業を能動的、印象的にすることが狙いである。長期的には、身近な社会問題に関心をもつようになることを目指した。

8．評価の視点

新聞記事の内容の理解や要約が適切であるか、記事を読んで設定したキーワードが適切で、そのキーワード調べが正確であるか、をまとめられた内容の質と量を考慮して点数化する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「基本的人権の保障と新しい人権」
1.基本的人権とは　2.平等権　3.自由権　4.社会権　5.請求権　6.参政権　7.新しい人権

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

単元「基本的人権の保障と新しい人権」
1.基本的人権とは(1時間)　2.平等権(4時間)本時　3.自由権(3時間)　4.請求権(1時間)
5.参政権(1時間)　6.新しい人権(1時間)

留意点　(1)生徒の理解を深めるために、ワークシートの内容に工夫を施した。
＊生徒が選んだ記事やそれについてのレポートを教科書の内容に沿って並べた。
＊生徒が発表した内容をワークシートに記入するようにした。これにより、他の生徒が選んだ記事も自分のものとして学習に生かせる。
＊ワークシートに書き込みながら、人権問題の重要な点を理解できるようにした。
(2)限られた授業時間の中ではあるが、できる限り生徒と対話をしながら授業を進めた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

＊新聞から「平等権」についての記事を探し出す作業中は、意外と楽しそうに真剣に取り組んでいた。
＊ある生徒は、授業後「友達の発表を聞いて、自分が気づかないところにも人権侵害があるとわかった。新聞で調べることもおもしろい」と話していたが、授業の成果が現れていたのではないかと考える。

12．成果と課題

成果　(1)「平等権」について、生徒はより身近に、具体的に感じることができたのではないかと思う。
(2)他の生徒の発言を聞くことで、自分にも気づかなかった人権侵害の存在を知ることができた。

課題　当日の授業だけでは、十分な内容とはならず、生徒との対話を引き出しながら、授業を進めていくと生徒への印象も強く残る。